

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	言語聴覚障害診断学Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	9
対 象 学 年	2年	学 期	前期	教室名	
担 当 教 員	中谷 和子				
実務経験と その関連資格	<p>公立病院で耳鼻いんこう科専属の言語聴覚士として勤務している。 外来診療で、成人の難聴・内耳疾患や顔面神経麻痺・前庭神経炎等の末梢神経疾患に対応した各種聴覚検査とリハビリテーションを担当している。 また幼児難聴外来で幼児聴覚検査と言語リハビリテーション、補聴器外来で補聴器フィッティングと補聴器適合検査も担当している。 日本言語聴覚士協会・日本聴覚医学会・日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会・日本顔面神経学会 会員</p>				
《授業科目における学習内容》					
既習の知識を基に評価診断の理念と過程を理解し、患者・保護者への情報伝達、医師等他職のスタッフとの情報共有等についても考慮し、臨床での実践につなげる					
《成績評価の方法と基準》					
レポート・発表 50% 試験 50%					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
藤田郁代「標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法 評価・診断学」, 第1版, 医学書院, 2020年 その他 資料を適宜配布します。					
《授業外における学習方法》					
耳鼻咽喉科学・言語発達障害学・構音障害・補聴器・聴覚検査 の復習をしてください					
《履修に当たっての留意点》					
指定の教科書、配布資料の他に必要な書籍等の各種資料を持ち込んでいただいても構いません					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	評価・診断の理念を理解する	配布資料 指定教科書		
	各コマに おける 授業予定	言語聴覚障害の評価・診断の理念について			
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	評価・診断の過程を理解する	配布資料 指定教科書		
	各コマに おける 授業予定	言語聴覚障害の評価・診断のために必要な手続き・手順			
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	言語発達・構音に問題を抱える児の評価を理解し実践できる	配布資料 指定教科書		
	各コマに おける 授業予定	ことばやコミュニケーションに問題を抱える児の評価①			
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	言語発達・構音に問題を抱える児の評価を理解し実践できる	配布資料 指定教科書		
	各コマに おける 授業予定	ことばやコミュニケーションに問題を抱える児の評価②			
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	言語発達・構音に問題を抱える児の評価を理解し実践できる	配布資料 指定教科書		
	各コマに おける 授業予定	ことばやコミュニケーションに問題を抱える児の評価③			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	補聴器外来での業務の流れを理解する	配布資料 指定教科書	
	各コマにおける授業予定	補聴器外来での業務について		
第7回	授業を通じての到達目標	嚥下内視鏡検査での嚥下機能評価方法を理解する	配布資料 指定教科書	
	各コマにおける授業予定	嚥下内視鏡検査で嚥下機能を評価する		
第8回	授業を通じての到達目標	顔面神経麻痺の評価方法と予後予測を理解する	配布資料 指定教科書	
	各コマにおける授業予定	顔面神経麻痺の評価と予後予測・リハビリ・患者対応		
第9回	授業を通じての到達目標	めまい(前庭神経炎)の評価・診断について理解する	配布資料 指定教科書	
	各コマにおける授業予定	めまいの評価・リハビリ・患者対応		
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			